

神戸市統計報告 速報版(平成14年度第1号)

従業地・通学地集計(その1)結果(概要)

平成12年10月1日現在で実施された「平成12年国勢調査」の従業地・通学地集計(その1)結果(確定数)が、このほど総務省統計局より公表されましたので、神戸市関係分の概要をお知らせします。詳細については、平成14年6月刊行予定の「神戸市統計報告」で報告します。

結果の概要

- ・平成12年国勢調査時の昼間人口は、1,536,716人で、前回平成7年と対比し43,019人増(増減率2.9%)と順調に回復・増加している。
- ・流入人口219,191人から流出人口174,618人を引いた流入超過数は44,573人で、昼間人口が夜間人口を44,573人上回っている。
- ・平成7年は、震災の影響で流入人口が増加し、その結果昼間人口と夜間人口の比率を示す昼夜間人口比率もアップし105.0となったが、震災復興とともに、流入人口が元に戻ったことから昼夜間人口比率も2.0ポイント下がり、103.0となった。
- ・区別では、震災被害の大きかった区では平成7年は昼夜間人口比率が軒並み上昇したが、復興に伴い、平成2年の水準に戻った。昼夜間人口比率が最も高いのは就業地の性格の強い中央区の259.7で、最も低いのは、ベッドタウンの性格の強い垂水区の72.2となっている。
- ・地域別の流入・流出状況では、周辺市町からの流入、大阪市への流出という流れに変化はない。

流入人口：神戸市外に常住し、神戸市を従業地・通学地として通勤・通学している者の数
流出人口：神戸市内に常住し、他市町を従業地・通学地として通勤・通学している者の数

表1 常住地又は従業地・通学地による人口(平成12年10月1日)

区	常住地による人口					従業地・通学地による人口			流入超過数 (d-b)	昼夜間人口比率 (c/a×100)
	総数 (夜間人口) (a)	従業も通学もしていない	自宅で従業	市内で従業・通学	市外で従業・通学 (流出口) (b)	総数 (昼間人口) (c)	うち市内他区に常住	うち市外に常住 (流入人口) (d)		
全市	1,492,143	556,030	51,828	670,443	174,618	1,536,716	297,641	219,191	44,573	103.0
東灘区	190,865	66,434	5,296	76,939	36,455	186,392	25,970	32,380	4,075	97.7
灘区	120,494	43,214	4,764	53,708	14,628	122,185	21,936	19,308	4,680	101.4
中央区	107,886	36,287	5,822	47,858	9,429	280,227	114,781	79,270	69,841	259.7
兵庫区	106,883	42,687	5,845	47,015	6,544	138,828	41,151	18,762	12,218	129.9
北区	225,124	85,946	6,630	99,479	30,645	170,827	8,306	11,060	19,585	75.9
長田区	105,216	44,378	5,747	46,815	6,674	110,683	27,001	9,542	2,868	105.2
須磨区	173,925	66,718	4,499	84,557	15,843	144,000	23,017	9,580	6,263	82.8
垂水区	226,151	90,558	5,572	102,807	23,954	163,274	10,186	7,624	16,330	72.2
西区	235,599	79,808	7,653	111,265	30,446	220,300	25,293	31,665	1,219	93.5

注) 年齢不詳を除く

1 昼間人口の推移

昼間人口も順調に回復・増加 - 昼夜間人口比率は103.0 -

- ・平成12年10月1日国勢調査時の昼間人口は、前回平成7年と比べ43,019人増（増減率2.9%）の1,536,716人であった。平成7年には、昼間人口も夜間人口と同様、大幅に減少したが、減少幅は24,426人（同 1.6%）と夜間人口の43,983人（同 3.0%）ほどではなかったことから、夜間人口の69,580人増（同4.9%）には及ばないものの、順調に回復・増加しているといえる。
- ・昼間人口のうち流入人口（市外に常住し、市内に通勤・通学している者）は、平成7年比23,427人減（同 9.7%）の219,191人であった。平成7年は平成2年比23,954人増（同11.0%）と大幅に増加したのに対し、今回は、ほぼ同数の大幅な減少となった。これは平成7年調査時には震災のため市外に住居を移し、「流入人口」となった人たちが、復興に伴い、市内に戻ってきたことによるものと考えられる。
- ・夜間人口1,492,143人のうち、日々通勤・通学をしている者は845,061人、そのうち174,618人が市外への通勤・通学者（流出人口）で、通勤・通学者全体に占める割合は20.7%となっている。この割合は、平成2年18.9%、平成7年20.2%と上昇傾向にある。
- ・以上の結果、流入超過数（流入人口 - 流出人口）は44,573人で、平成7年に比べ26,561人減（37.3%）となった。また、昼夜間人口比率（昼間人口/夜間人口×100）も2.0ポイント下がり、103.0となった。

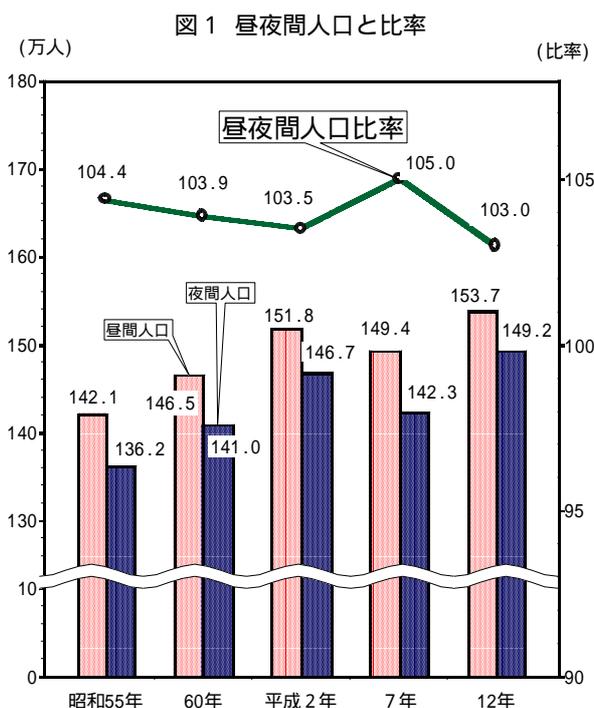


表2 昼間人口、夜間人口、昼夜間人口比率等の推移

(単位：人，%)							
区 分	各国勢調査実数			増減数		増減率	
	平成2年	7年	12年	2～7年	7～12年	2～7年	7～12年
昼 間 人 口	1,518,123	1,493,697	1,536,716	24,426	43,019	1.6	2.9
うち市外に常住（流入人口）	218,664	242,618	219,191	23,954	23,427	11.0	9.7
夜 間 人 口	1,466,546	1,422,563	1,492,143	43,983	69,580	3.0	4.9
うち通勤・通学者	885,256	850,841	845,061	34,415	5,780	3.9	0.7
市内で従業・通学	718,169	679,357	670,443	38,812	8,914	5.4	1.3
市外で従業・通学（流出人口）	167,087	171,484	174,618	4,397	3,134	2.6	1.8
	(18.9)	(20.2)	(20.7)				
流 入 超 過 数	51,577	71,134	44,573	19,557	26,561	37.9	37.3
昼夜間人口比率	103.5	105.0	103.0	1.5	2.0		
注）年齢不詳を除く							
()内は、通勤・通学者全体に占める市外で従業・通学（流出人口）の割合である。							

2 大都市比較

昼夜間人口比率は、大都市では9番目の位置

- ・大都市の昼夜間人口比率を比べると、大都市圏の中心である大阪市(141.2)、東京都区部(137.5)、名古屋市(117.0)は高い値を示す。一方、東京圏にあって、東京のベッドタウンとしての性格もある千葉市(97.2)、横浜市(90.5)、川崎市(87.8)は100を切っている。
- ・福岡市(114.6)、仙台市(108.2)も高い数値を示し、就業地としての性格を示す。また、京都市(109.0)も高い。
- ・神戸市(103.0)は、北九州市(103.4)、広島市(103.4)、札幌市(101.3)と同じく100を少し上回る位置にある。
- ・ただ、北九州市、広島市、札幌市は、流入人口・流出人口とも10万人以下であるのに対し、神戸市は、流入人口22万人、流出人口18万人とその動きが大きい。神戸市は、就業地としての性格を持つとともに、大阪圏のベッドタウンの性格を併せ持つ都市といえる。

図2 大都市の昼夜間人口比率(平成12年10月1日)

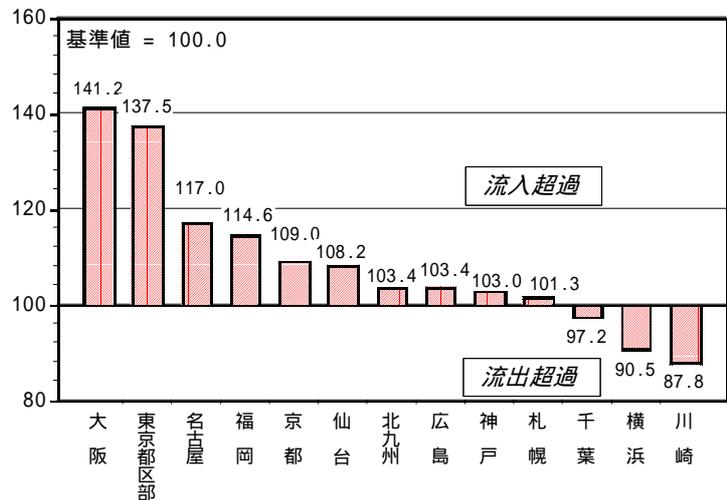


表3 大都市の昼間人口,昼夜間人口比率等(平成12年10月1日)

(単位:千人)							
都 市	昼間人口	うち流入人口	夜間人口	うち流出人口	流入超過数	昼夜間人口比率	(参考)
							昼夜間人口比率(7年)
神戸市	1,537	219	1,492	175	45	103.0	105.0
札幌市	1,821	85	1,797	62	23	101.3	102.0
仙台市	1,090	131	1,008	49	83	108.2	109.3
千葉市	859	178	883	202	24	97.2	96.9
東京都区部	11,125	3,471	8,092	438	3,033	137.5	141.0
横浜市	3,091	407	3,415	731	324	90.5	89.7
川崎市	1,097	236	1,249	388	152	87.8	88.8
名古屋市	2,515	547	2,149	181	366	117.0	118.6
京都市	1,585	248	1,454	117	130	109.0	110.1
大阪市	3,664	1,333	2,595	264	1,069	141.2	146.5
広島市	1,163	98	1,125	60	39	103.4	104.0
北九州市	1,045	81	1,010	47	35	103.4	103.9
福岡市	1,531	265	1,337	71	195	114.6	115.5
(参考)							
兵庫県	5,276	142	5,547	412	270	95.1	95.4

注) 年齢不詳を除く

3 区別昼間人口

昼夜間人口比率は中央区の259.7が最高、垂水区72.2が最低

- ・前回平成7年調査では、震災被害の大きかった東灘区、灘区、中央区、兵庫区、長田区では、昼間人口減少以上に夜間人口減少があり、昼夜間人口比率も軒並みアップした。これらの区では、復興に伴い住宅供給も進み、夜間人口が回復し、その結果、昼夜間人口比率も平成2年水準に戻ったといえる。
- ・従来から就業地としての性格の強い中央区は、259.7と昼間人口が夜間人口の2.5倍以上である。兵庫区も129.9と就業地としての性格を有している。
- ・東灘区は、平成2年は94.2と夜間人口の方が昼間人口より多く、平成7年は震災後の夜間人口の減少により、106.4と昼間人口の方が多くなっていた。平成12年は大幅な夜間人口の回復により、再び97.7と夜間人口の方が多くなった。
- ・灘区は、大学・高校が多く、通学者が昼間人口を押し上げる要素となっている。
- ・長田区は、昼間人口は、平成7年より減少したが、夜間人口は平成7年より増加した結果、105.2と平成7年より低下した。
- ・昼夜間人口比率が100を下回るのは、垂水区(72.2)、北区(75.9)、須磨区(82.8)、西区(93.5)、東灘区(97.7)で、ベッドタウンとしての性格が表れている。

図3 区別昼間人口、夜間人口(平成12年10月1日)
(万人)

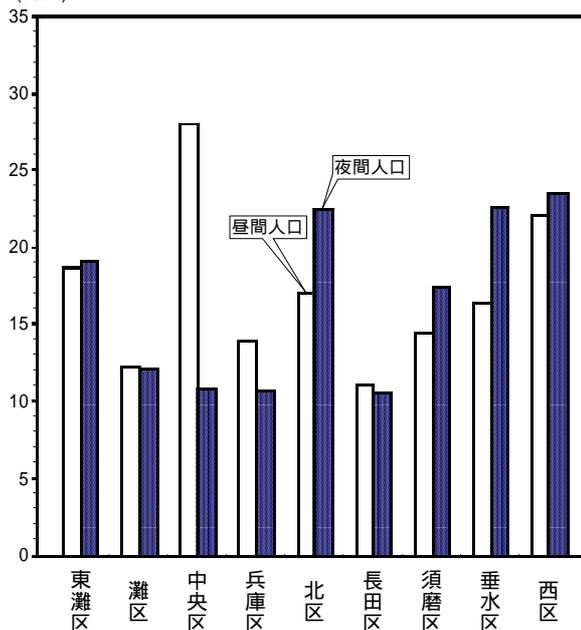


表4 区別昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率

区	昼間人口			夜間人口			昼夜間人口比率		
	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年
全 市	1,518,123	1,493,697	1,536,716	1,466,546	1,422,563	1,492,143	103.5	105.0	103.0
東灘区	178,114	167,417	186,392	189,144	157,407	190,865	94.2	106.4	97.7
灘 区	129,656	107,605	122,185	128,106	97,360	120,494	101.2	110.5	101.4
中央区	307,435	284,186	280,227	114,208	103,218	107,886	269.2	275.3	259.7
兵庫区	154,190	137,212	138,828	123,263	98,799	106,883	125.1	138.9	129.9
北 区	143,617	167,752	170,827	197,697	230,443	225,124	72.6	72.8	75.9
長田区	142,739	112,923	110,683	136,087	96,734	105,216	104.9	116.7	105.2
須磨区	149,575	144,149	144,000	186,929	176,488	173,925	80.0	81.7	82.8
垂水区	159,636	163,604	163,274	233,328	240,087	226,151	68.4	68.1	72.2
西 区	153,161	208,849	220,300	157,784	222,027	235,599	97.1	94.1	93.5
注) 年齢不詳を除く									

4 地域別流入・流出の状況（15歳以上の通勤・通学者）

流入人口の35.9%は東播臨海部から，流出人口の33.7%は大阪市へ

- ・15歳以上の通勤・通学者について，地域別の流入・流出の状況を見る。神戸市への流入人口のうち，東播臨海部に住んでいる者は77,650人（流入人口に全体に占める割合35.9%）で1番多く、次に多いのが阪神間6市の60,025人(同27.8%)となっている。県外からは，大阪府を中心に42,356人（19.6%）となっている。
- ・震災の影響を受け，平成7年は平成2年と比べ流入人口が24,481人増加したが，地域別では，震災被害の大きかった阪神間6市を除き全ての地域が増加した。震災で市外への転居が各地域にわたっていたことがうかがわれる。
- ・震災復興も進み，流入人口は減少し，平成2年を少し上回る程度となった。平成7年は震災の影響が大きいため流入状況を平成2年と対比すると，阪神間6市，東播臨海部からの流入はともに減少し，三木・小野・三田，その他の市町，他府県からの流入が増加している。
- ・神戸市からの流出人口は，大阪府74,505人（流出人口全体に占める割合43.2%）が最も多く，そのうち大阪市が58,092人（同33.7%）となっている。続いて阪神間6市41,610人（同24.1%）東播臨海部29,367人（同17.0%）となっている。
- ・地域別の流出状況の推移については，阪神間6市の減少傾向，三木・小野・三田，その他市町の増加傾向は変わらない。
- ・震災を経て，多少の数値の変動があるが東播臨海部（流入超過48,283人）をはじめとする周辺市町からの流入，大阪市（流出超過45,844人）への流出という神戸市の基本的な人の流れに変化はない。

阪神間6市：芦屋,西宮,宝塚,尼崎,伊丹,川西の各市 東播臨海部：明石,加古川,高砂の各市と稲美町,播磨町

表5 地域別流入人口，流出人口の推移（15歳以上の通勤・通学者）

(単位：人，%)									
地 域	流入人口			流出人口			流入超過		
	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年
総 数	215,338	239,819	216,217	165,057	169,294	172,510	50,281	70,525	43,707
県 内	174,958	186,253	173,861	84,160	89,848	90,651	90,798	96,405	83,210
阪 神 間 6 市	63,892	61,398	60,025	44,317	42,117	41,610	19,575	19,281	18,415
東 播 臨 海 部	80,065	86,892	77,650	26,127	30,061	29,367	53,938	56,831	48,283
三 木 ・ 小 野 ・ 三 田	15,664	18,646	18,188	8,102	10,720	11,429	7,562	7,926	6,759
そ の 他 の 市 町	15,337	19,317	17,998	5,614	6,950	8,245	9,723	12,367	9,753
他 府 県	40,380	53,566	42,356	80,897	79,446	81,859	40,517	25,880	39,503
京 都 府	2,361	3,332	2,586	2,887	2,655	3,116	526	677	530
大 阪 府	32,007	41,658	33,467	75,075	72,644	74,505	43,068	30,986	41,038
う ち 大 阪 市	11,305	15,633	12,248	59,399	57,271	58,092	48,094	41,638	45,844
そ の 他 の 県	6,012	8,576	6,303	2,935	4,147	4,238	3,077	4,429	2,065
割 合									
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
県 内	81.2	77.7	80.4	51.0	53.1	52.5			
阪 神 間 6 市	29.7	25.6	27.8	26.8	24.9	24.1			
東 播 臨 海 部	37.2	36.2	35.9	15.8	17.8	17.0			
三 木 ・ 小 野 ・ 三 田	7.3	7.8	8.4	4.9	6.3	6.6			
そ の 他 の 市 町	7.1	8.1	8.3	3.4	4.1	4.8			
他 府 県	18.8	22.3	19.6	49.0	46.9	47.5			
京 都 府	1.1	1.4	1.2	1.7	1.6	1.8			
大 阪 府	14.9	17.4	15.5	45.5	42.9	43.2			
う ち 大 阪 市	5.2	6.5	5.7	36.0	33.8	33.7			
そ の 他 の 県	2.8	3.6	2.9	1.8	2.4	2.5			